山梨高校新聞

発行所
県立山梨高等学校
山梨県山梨市上神内川194
電話　0553(22)1621

編集人
山梨高校新聞委員会

「繋ぐ」

校長　小尾　きよこ

フィギュアスケート羽生結弦選手が、北京オリンピックシーズンのフリースケーティングで使用した曲は「天と地と」だった。これは昭和四四（一九六九）年NHK大河ドラマ「天と地と」（原作『天と地と』海音寺潮五郎著）のオープニングテーマ曲である。羽生選手は選曲にあたって、「悟りの境地のようなところまでいった謙信公の価値観とちょっと似ているかなと思って」と、自らのスケートに対する価値観や世界観を「軍神」と呼ばれた上杉謙信に重ね合わせていた。

『天と地と』の主人公上杉謙信は、武田信玄と五回にわたり川中島の戦いを繰り広げた、「越後の虎」とも「越後の龍」とも称される戦国時代屈指の武将である。その謙信が語った言葉に、「天地人」がある。

「輝虎（謙信公）曰く。天の時、地の利に叶い、人の和とも整いたる大将というは、和漢両朝上古にだも聞こえず。いわんや、末代なお有るべしとも覚えず。もっとも、この三事整うにおいては、弓矢も起こるべからず、敵対する者もなし」（『北越軍談　謙信公語類』）

これは、孟子の教え「天の時、地の利、人の和」を引用したと考えられており、物事を成功させるにはこの三つの条件が必要であることを伝えている。また、謙信は、

「大将の根底とするところは、仁義礼智信の五を規とし、慈愛をもって衆人を憐れみ……」（『北越軍談　謙信公語類』）

とも語っている。

この謙信を師と仰ぎ、その精神を受け継いだ人物が、謙信の跡を継いだ景勝に仕えた直江兼続である。豊臣秀吉を魅了し、徳川家康にも一目置かれた智将である。関ヶ原の戦いに敗れた上杉家の存亡の危機を救ったのも、会津一二〇万石から米沢三〇万石に減封されても同行を希望する家臣全てを連れて国づくりに励んだのも兼続である。越後や米沢の伝統工芸品には兼続時代を起源とするものが多い。兼続の行動は、主君に対しても同僚や家臣に対しても、常に信義と仁愛に貫かれていた。

伝統・文化を繋げていくには、「天の時、地の利、人の和」の条件が必要であり、「義」「愛」の根本精神を体現する人間の存在が不可欠である。私たちは、この時代に、この地に生を受けた者として誰もが、家の、学校の、地域の、日本の、培われてきた伝統・文化を受け継ぎ発展させて、次代へと受け渡す役目を負っている。三年に及ぶ新型コロナウイルスによるパンデミックは、人と人とが直接交流する機会を極端に奪い、伝統・文化の根底に貫かれている〝心〟の継承を危うくしている。しかし、このような危機的状況だからこそ、過去を顧みて未来を描き、現在のやるべき役割をしっかりと自覚できる絶好の機会ともなる。一人一人が、目に見えない大きなバトンを繋ぐことを自覚した行動ができる社会人となることを切に願っている。

「時間の活用　～今こそ郷土を知ろう」

三学年主任　関口　直人

「自粛」という言葉をここ二年間よく耳にする。まだまだ、この先も続きそうであり、コロナ禍により増えた在宅時間を快適に楽しむための「自宅で美味しいものを食べたい」、「家で動画やゲームなどのエンタメを楽しみたい」、「家で運動したい」等、欲求を満足させる巣ごもり需要が各分野で急成長している。しかし、ただ時間を費やすだけでなく自由に思考を巡らせる時間にしてはどうだろうか？

イングランドの自然哲学者、数学者、物理学者、天文学者、神学者であるアイザック・ニュートンは、ガリレオの死んだほぼ一年後（グレゴリオ暦：一六四三年一月四日）に生まれた。

彼がケンブリッジ大学トリニティ・カレッジに在学中の一六六五年から一六六六年にかけて二度、ロンドンではペストが大流行した（ペストは十四世紀以前にヨーロッパ全人口の三分の一以上を死に至らしめた）。この影響でケンブリッジ大学も閉鎖されることになり、ペスト禍を逃れて故郷の田舎に戻っていた一年半ほどの間に、「ニュートンの三大業績」といわれる「万有引力の法則」「光の分析」「微分積分の計算法」の発見および証明がなされているため、この期間のことは「創造的休暇」とも呼ばれている。この間に、リンゴが落下するのを見て万有引力のアイディアを思いついたとの有名な逸話がある。このリンゴの木は、ケントの花と呼ばれるセイヨウリンゴの品種で、一八一四年に伐採されたため現存しないが、接ぎ木で残された子孫の木が世界各地で栽培されている。

さて、アイザック・ニュートンほどの大発見はできないとしても、自分が興味関心を持っている事柄や、生まれ育った身近な郷土の風土や歴史文化などに興味関心を持ち探究することで新しい発見があるかもしれない。例えば、①「山梨」の県名の由来は？②「甲府」の由来は？③山梨県の県名と県庁所在地名が違う理由は？④山梨県のワイナリー軒数は？⑤甲州市勝沼の「休息」の地名の由来は？こんな身近な疑問から色々なことに興味を持ち、小さな発見がいずれ大きな発見につながっていくだろう。五十年前に「日本を発見し、自分自身を再発見する（ディスカバー・ジャパン）」というキャンペーンがあり、副題は「美しい日本と私」だった。今こそ「ディスカバー・ヤマナシ（山梨を発見し、自分自身を再発見する：美しい山梨と私）」ではないのか。

①「山梨」の由来は二つの説がある。（1）山ナシの木が多かったからという説、（2）国司（こくし）の役所が山の無い平らな土地にあったからという説。

②「甲府（こうふ）」の称が始まったのは、武田信玄の父が現在の武田神社の地に新たな館を築いたときからで、「甲斐の府中」を意味する。

③江戸時代には甲州あるいは甲斐国と呼ばれ、山梨郡・巨摩郡・八代郡・都留郡の四郡で構成されていた。版籍奉還の際に一度は甲府県と命名されたが、明治の廃藩置県で旧郡名の「山梨」が採用され、現在に至っている。

④山梨県のワイナリー軒数は八十五軒で全国一位、日本の全生産量のおよそ30％を占める。

⑤「休息」という地名は鎌倉時代（今から七百五十年前）、日蓮聖人がこの地に休足した故事に由来する。この地において日蓮聖人は「国は正しい教えによって、万人が幸せに暮らすことが出来る」という内容の『立正安国論』を論じた。

生徒会の存在

生徒会長　荻原　潤菜

新型コロナウイルスが蔓延し、梨窓祭や修学旅行、球技大会など多くの行事が延期や中止となった。その渦中に生徒会長に就任した私は、この状況で生徒会がすべきことは何なのか、模索し続けた。少しでも思い出に残るような行事を行おうと、新たな活動にも挑戦した。

活動を進める中で私が重視したのは、生徒会本部役員について深く知ることだった。十九名の役員の人柄や個性を理解すれば、より効率よく質の高い作業が進められると考えたからだ。機材の扱いは得意でも人付き合いが苦手だったり、逆に人付き合いは得意でも機器を使えなかったりする、そういう特徴を把握したことが多くの成果を生み出した気がしている。また、先輩と後輩の垣根を越えて、常に笑いの絶えない場であったことも、より充実した活動へと繋がったのだと思う。仲の良さを生かした活発な意見交換により改善できた部分も多い。皆で一丸となって目標達成を目指していく上でかなり重要だったと感じる。

生徒会長として活動し、行事運営に携わる中で、それがどれだけ大変なのか思い知らされることも多々あった。中でも梨窓祭の時ほど過酷な日々はないと思った。だが、そういった経験があったからこそ、新しいことに挑戦する意義や先を見据えて行動する大切さを学ぶことができた。誰か一人でも楽をしようとすれば、誰かがその分の迷惑を被り背負わなくてはならなくなることを肌で感じた一年だった。苦労しつつも大きく成長することができたと感じている。

生徒会という存在を身近に感じてもらうことも私たち役員の目標だった。そのために「生徒会だより」や「梨高タイムズ」等で全校生徒の活躍に加えて本部役員の放課後の様子を発信してきた。昨年度よりもお互いの活躍を知る機会が増えたのではないだろうか。また、クラッシーを利用して生徒の意見を聞く機会も設け、球技大会の種目や梨窓祭の投票方法も変更した。多くの行事がオンラインによる実施となり、不慣れなために生徒の皆さんに迷惑をかけることが多くなってしまったことを申し訳なく思う。だが、いつの時も協力を惜しまなかった皆さんのおかげで、ここまで活動することができた。本当に感謝している。

生徒会役員として批判を受けることもあったが、それ以上に行事を無事に運営できた達成感の方が大きい。現生徒会本部の方々には、私たちが実行できなかったことにぜひ積極的に挑戦してほしい。どのようにカレーライスのような関係を築いていくのか、さらなる活躍を期待している。

「新しい日常」の中で考えたこと

進路指導主事　飯島　雅美

年末年始に度々目にしたCMで、印象に残ったものがあった。コロナ禍に見舞われて以降、友人や知人との間で度々交わされたであろう「落ち着いたらまた」という表現をクローズアップしたものであったが、思えば私自身も幾度となくこの表現を用いていたことに改めて気づいた。最初の緊急事態宣言が出された一昨年の春、山梨県の長崎知事は「大切な人だから今は離れて」という表現で不要不急の外出の自粛を呼びかけていた。どちらの言葉も状況を鑑みれば至極当然であり、そうするべきだと感じる。しかし、これほどの長期に及ぶとなると、CMにあったように「みんなに会いたい！」となるのは必定であろう。施設で暮らす高齢の母親に短時間とはいえ一年半ぶりに面会ができたと声を詰まらせて話す知人の話には思わず涙を誘われたが、全国至る所でこうした事態が起きていると考えると、胸が詰まる思いがする。会いたい時に会いたい人に会える日常が戻ってくることを、今は静かに待つしかない。

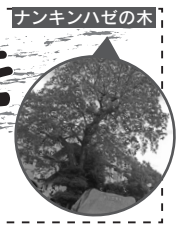
進路指導に携わる立場に身を置く者として憂慮しているのは、各種の体験活動の中止や縮小が、進路選択に少なからず影響を与えていることである。医療体制の逼迫防止の観点から、病院での看護体験は丸二年ストップしたままであるし、高齢者福祉施設等でのボランティアの再開も厳しいようである。「百聞は一見に如かず」を持ち出すまでもなく、実際に見聞きして触れることが自己の意欲や適性を確認する最も有効な方法であるに違いない。ただ、オンラインによる代替開催や事前予約による最小人数での実施など、受け入れ側も知恵を絞って機会の提供に尽力している。様々な状況が許すのではあれば、万全の対策を講じた上で積極的に参加してほしい。「オンラインではわからない」と何も動かないより、正確かつ有益な情報が入手できることは間違いない。

当面の間、一進一退を繰り返しつつ難敵とのせめぎ合いが続くことが予想される。よほど達観していない限り、心がささくれ立ち、投げやりな気持ちになる時が誰しもあるだろう。そんな時は、「落ち着いたら（また）絶対○○するぞ！」と自らを励まして少し先を見据えてみたらどうだろうか。今の制約と我慢とがいつか実を結ぶと信じて、それぞれが自分にできることをできる範囲で確実に続けていこう。

山梨高新聞158号220210.indd 1　2022/02/10 9:44

2021年を振り返る

登校風景


ナンキンハゼの木

本校に入学して

一年　早川　真央

山梨高校の入学式の日、憧れていた高校生活が目の前まで来たことを実感し、これからの生活への期待に胸を膨らませていた。クラス分けでは、幼い頃から仲の良い友人と離れてしまって悲しかったが、私は昔からすぐ友だちを作ることができたので、心配していなかった。また中学校でお世話になった先輩もいたので、正直なところ高校生活に対してあまり緊張や不安は抱いていなかった。

しかし、実際はうまくいかなかった。各教室の場所が覚えられず迷ったり、高校の仕組みがわからずに戸惑ったりすることが多くあった。その時、今まで周りの人たちにどれだけ助けられ、支えられていたのかを改めて自覚した。自分だけだと何もできないことにも気づくことができた。

今では入学時より友人が増え、楽しい毎日を過ごしている。これからは自分が友人を支えられるようにしていきたい。そして自分に何ができるかを見つけていきたいと思う。

修学旅行への期待

二年　長澤　佑衣

本来は十一月に行われる予定だった修学旅行は、コロナウイルスの影響で二度延期された。私たち二年生は入学して以来、コロナウイルスによって学校行事が中止になったり、内容が変更されたりすることが多かったので、本来の高校生活がどういったものであるのかわからない。

しかし、修学旅行が高校生活最大の学校行事であることに変わりはない。この先コロナウイルスが収束すれば、中止とならずに修学旅行に行けるかもしれないということなので、楽しい思い出を作れると思うと期待で胸がいっぱいになる。

コロナウイルスで学校生活が変わってしまい、制限されることが多いため窮屈さを感じることもあるが、高校で仲良くなれた仲間との一生の思い出を作りたいので、何としても無事に修学旅行に参加したいと願うばかりだ。

進級にあたっての決意

二年　矢崎　明依

私は三年生になることに対して不安でいっぱいだ。それは受験があるからだ。受験は絶対に失敗できない難しいものだ。合格するには、早めに志望先を決めてその学校の特徴や受験科目を知っておく必要がある。「誰かが調べてくれるからいいや」と思わず、自分で調べて分からない場合は人に聞くなど、まず自分自身で進路に向き合い考えるようにしたい。

受験以外では、学校生活全般を楽しみ、部活動を頑張ることも大切だと思う。まずはコロナウイルスに感染しないよう万全の対策を取りながら楽しむことを心がける。また、ルールも何もわからない状態で入部したハンドボール部の活動は、新しいことに挑戦できる絶好の機会だと思うので、足を引っ張らないよう全力で頑張りたい。

今よりももっと成長して、周囲から期待されるような自分になれるよう、何事も全力で取り組むこと、これが私の決意である。

学園祭の思い出

二年　佐々木羽那

新型コロナウイルスにより縮小しながらではあるが、今年度は学園祭を行うことができた。昨年度は中止となり残念だったが、今年はクラスの仲間と楽しむことができ、うれしく思った。

学園祭を通して気づいたこと、知ったことがある。学園祭までは大きな行事がなく、クラスの人と関わる機会がなく、一方的に「どのような人なのだろうか」と想像しているような状況だった。しかし、準備期間中に話したり協力して作業したりすることで、少しずつそれぞれについて知ることができた。思っていた通りの人もいれば、「こんなことができるんだ」という意外な一面を持つ人もいた。お互いを理解した上で楽しみながら深く学ぶことができた。二学期後半からはグループに分かれて調べたり考えたりする活動が始まった。ＳＤＧｓは世界全体の問題であると同時に、個人の問題でもあると思う。まず私たち一人ひとりが意識することを目標とした活動は、とても意義のあることだと感じている。

二〇三〇年までであと八年。ここまでにＳＤＧｓを達成しなければならない。短い期間ではあるが、私たち高校生にもできることは必ずある。小さな行動で大きな流れを作り出せると信じて、さらに理解を深めていきたい。

高校生活とコロナ

三年　小林　千紗

新型コロナウイルスの国内での感染拡大が始まって早二年が経った。入学前に思い描いていた高校生活とは一変し、誰もが予想もしていない事態となってしまった。学校行事が中止になったり、制限がある中での開催になったり、日常の学校生活でも私たちは新型コロナウイルスによって散々苦しめられ、悔しい思いをしてきた。

私が学校生活で最も好きな時間は昼食時に友人と向き合ってお弁当を食べる時間で、何よりも楽しみだった。しかし、今は各自の席で前を向いて黙って食べるようになってしまった。以前まで当たり前にしてきたことができなくなったことにストレスを感じている人がほとんどだと思う。しかし、だからこそ当たり前と考えていた生活がどれだけ幸せなことだったかを改めて感じたはずだ。元の幸せな生活をいち早く取り戻すためにも、今できることを一人ひとりが全力で行っていくことが大切だと考える。

進路選択と受験

三年　内田　光愛

今年度も新型コロナウイルスが受験に影響した。少し落ち着いたと思ったのも束の間、オープンキャンパスや説明会がオンライン開催になってしまい、実際に大学の雰囲気を感じることでクラス一丸となって取り組むことができ、絆が深まったと実感した。

普段の生活の中だけでは気づけない仲間の魅力に気づくことができてうれしかった。そして何よりも全員で楽しく学園祭に参加したことで心に残る思い出となった。来年も学園祭ができることを願い、その時はまた新しい友人の新たな一面を見つけたいと思う。

卒業への旅立ち

三年　榎原　希望

三年生になってからの一年間は、本当にあっという間だった。進路選択で悩んだり、受験に必要な小論文や面接の練習で放課後残ったり、二年生までと比べると忙しい日々だった。そんな日々を終えて、いよいよ卒業を迎える。卒業後は進学や就職と、それぞれ別の道を歩んでいくことになる。今までは両親や先生方に頼っていた部分もあったが、これからは一人の大人としての自覚と責任を持って生活していきたい。また大学では、高校で学ぶことのできなかった資格の勉強や社会人としての常識などを学びたいと思う。今後は自分だけで考えて選択することが多くなっていくと思うので、自立を目指したい。

この三年間、楽しいことも辛いこともあったが、優しい友人や先生方に恵まれて、本当に良かったと思っている。別々の道を進むことになる友人もいるが、お互いに頑張っていきたいと思う。

入学後の新たな挑戦

一年　西島　花美

私は中学校でハンドボール部に所属していた。中学三年の時は、新型コロナウイルスの影響で活動が制限され、私たちのチームで出場を目指していた全国大会も中止になった。しかし、練習や試合を通してスポーツのすばらしさを学ぶことができた。

中学校の部活動をきっかけに、私は高校でも運動部に入ることを決めていた。高校生になって新しいことに挑戦してみたい気持ちがあり、興味があった陸上競技部に入部した。ハンドボールとは違いほぼ個人競技であるので、体力の向上や技術の上達がはっきりと記録に表れるのがわかりやすい。今は専門種目としてハンマー投げの練習に励んでいる。最近では少しずつ動きに慣れて、楽しいと感じる時が増えている。この感覚を大切にして、これからも高校総体や関東大会を目指して、日々練習に打ち込んでいきたいと思っている。

学校行事が無くなった。それはとても辛いものだったが、今だけ我慢し、自分たちにできる対策をしっかりしていきたいと思っている。そして来年度こそは学校行事も、部活動も、勉強も、今年度よりたくさん楽しんでいきたいと思う。

ＳＤＧｓについて

一年　清水　啓生

私がＳＤＧｓを初めて知ったのは、中学三年生の面接練習の時だった。それがきっかけで深く調べるようになった。ＳＤＧｓは未来のために最も大切な目標だと考える。

高校入学後、本格的にＳＤＧｓの学習が始まった。主にＴＳの時間で触れる機会が多く、様々な講演やカードゲームなどを通して、楽しみながら深く学ぶことができた。二学期後半からはグループに分かれて調べたり考えたりする活動が始まった。ＳＤＧｓは世界全体の問題であると同時に、個人の問題でもあると思う。まず私たち一人ひとりが意識することを目標とした活動は、とても意義のあることだと感じている。

二〇三〇年までであと八年。ここまでにＳＤＧｓを達成しなければならない。短い期間ではあるが、私たち高校生にもできることは必ずある。小さな行動で大きな流れを作り出せると信じて、さらに理解を深めていきたい。

部活動を振り返って

三年　雨宮　歩希

私は中学生の時から吹奏楽部に所属していたが、関東大会への出場を果たせなかった。そのため、高校では「関東大会出場」を目標に掲げ、部活動に励んだ。高一のコンクールでは、自分の担当楽器ではなかったものの県大会で金賞を獲得し、念願の関東大会へ出場することができた。

しかし、高一の三学期から新型コロナウイルスの感染が拡大し、定期演奏会や二年目のコンクールが中止になってしまった。通常の練習そのものが思うようにできず、リモートを活用しての活動となったが、ＳＮＳで発信したことをきっかけとして新聞やテレビで取り上げていただくことができたことは収穫であった。

二年ぶりに開催された今年度のコンクールでは、残念ながら関東大会出場は果たせなかった。悔しいという思いが強かったけれど、どのような状況でも自分たちの目標を強く持ち続けることが大切だということを学んだ三年間だった。

夏休み明けの分散登校

一年　日原　颯太

夏休みの後半から、またもコロナウイルスが猛威を振るってきた。当初はあまり広まらないだろうと思っていたが、意外にも感染者が増えて、一時は県内でも一日の感染者数が百人を超えたこともあった。その影響で、二学期開始は分散登校の形で迎えることになった。

分散登校自体は、コロナウイルス感染が世界的に拡大し始めた中学三年の時に一度経験している。ただ、中学校と高校ではやり方が違っていて、午前と午後に分かれて登校する方式はとても新鮮だった。通常と同じ時間帯に登校する午前の場合はともかく、午前に家で過ごした後に登校するというのは、あまり慣れなかった。何より分散登校で友人に数日間会えないことが残念だった。

もうしばらく、いつ感染爆発してもおかしくない状況が続く可能性がある。日ごろから感染しないよう気をつけて過ごしていきたい。

コロナ禍二年目の日常

二年　望月　彩圭

新型コロナウイルスの日本での感染拡大から丸二年が経った。それでもいまだコロナウイルスは猛威を振るい続けており、感染者がゼロになる日がない。いつになったらこのコロナ禍の生活に終わりが来るのか、先が見えない生活に誰もが不安を隠せない。毎日何気なく過ごしていた中学校生活が悔やまれる。当時と比べて今は、マスクの常時着用や手洗いと消毒の徹底など新しい生活様式が取り入れられ、高校生活は制限の連続である。

しかし、このような制限された生活で感じたことがある。それは学校が楽しいということだ。休校中の生活は、友人と会って話をすることができない中で勉強だけが進んでいき、楽しみを見出せずに毎日退屈だった。休校明けの登校にとてもワクワクしたことは記憶に新しい。今は通常登校ができているが、今後も感染者数が急増する恐れがあるので、予防を徹底して普通の高校生活を楽しめるようにしたい。

二年ぶりの県高校総体

三年　田辺　航大

今年は二年ぶりに県高校総合体育大会が開催された。私はサッカー部に所属しているため、開催されることはもちろんうれしかった。しかし、誰も新入部員がいなかったため、部員七名、マネージャー一名の計八名しかいない。つまり、試合に出場する場合、七名対十一名で戦うしかないので、出場するべきか否か皆で話し合った。最終的に出場することに決めたのだが、結果は1対13で初戦敗退となった。

だが、明らかな劣勢の中でも諦めずに一丸となって懸命にプレーし、何とか一点取り返せたことなど、様々な思い出を作ることができた。また、大変な状況だったからこそ、普段以上に熱を持って練習に取り組んだ結果、部の一体感が以前よりもさらに強くなった。

最後に、この大会に出場したことは、一生の思い出となるとともに、改めてサッカー部に入ってよかったと実感している。

各賞

県高等学校体育連盟優秀選手表彰

伊藤　芳一

三力年皆勤賞

大村　美月　佐藤　綺音
佐野　葵　清水　誉生
武井　颯　中村　翔吾
長谷川咲季　平塚　隼仁
堀内結莉乃　山本　陸功
雨宮　希星　雨宮　友葉
長野　佳帆　野沢日菜多
萩原ほの香　原田　舜叶
廣瀬　健一　藤原　青葉
三澤舞由香　代永　渚
天野　和穂　石原のどか
磯谷　和花　小俣　茉友
後藤　日菜　駒井　里帆
三枝　遥斗　佐久間　楓
佐藤　結奈　田口　祥平
藤原　若葉　雨宮　歩希
雨宮　由佳　石崎雅香里
小野　翔大　窪田　美里
桑原　心花　杉原　涼
鈴木　遥　田中ゆずき
名取　遥陽　芳賀　咲斗
向山　大輝　村田安里紗
横内　果南　若杉　孔
秋山　大貴　安住　茉倫
飯塚　花音　伊藤　芳一
小澤　柚菜　杉本　悠真
鈴木　祥大　瀬崎　奏音
中村　健太　廣瀬　元
廣瀬　諒　前嶋　大貴